川崎大師ロータリークラブ週報

例会場：大本山川崎大師平間寺信徒会館

例会日：毎週水曜日 PM12：30～

第３９期

会　長　増田　昌美

副会長　竹中　裕彦

村石　庄作

幹　事　武者　惠吾

ＳＡＡ　白石　浩司

事務局：〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前 1-15-10 カーサ石井 1F

Tel.044-277-7569　Fax.044-288-8550

URL http://kawasakidaishi-rc.com/　E-mail:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp

第 1884 回（本年度　第 19 回）　例会　平成 23 年 11 月 15 日　　晴れ

３クラブ合同親睦夜間例会

川崎日航ホテル

●司会　望月　幹仁　ＳＡＡ

●開会の宣言と点鐘　宮本　欣淳　会長

●斉唱　奉仕の理想

♪ソングリーダー　野口　四郎

（以上　川崎マリーンＲＣ）

ゲストの紹介

鈴木慎二郎川崎マリーンＲＣ副会長

国際ロータリー第２５９０地区

第１グループガバナー補佐　神戸　博　様

米山奨学生　林　薇　様

洪　鑫瑜　様

孫　一舟　様

出席報告

船木　幸雄　出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率	
1884 回	59	47	25	22	53.19	%
1882 回	59	59	59	100	100.00	%
前々回の修正・ﾒｰｸｱｯﾌﾟ			0	修正出席	100.00	%

乾杯

神戸　博　様

ディナーショー

ROTARY CLUB
ROTARY CLUB
川崎大師・川崎中央・
3ロータリークラブ合同

川崎大師・川崎中央・川崎マリーン
ロータリークラブ合同親睦夜間例会
ROTARY CLUB

佐沼ＲＣ訪問報告　　武者　惠吾　幹事

１１月２６日(水)　神戸ガバナー補佐訪問例会のあと、増田会長、竹中副会長、村石副会長、宮山４０周年記念実行委員長、そして武者の５人で佐沼ＲＣを訪問してきました。

今年度に入り、増田会長の強い意志で佐沼ＲＣが行っている南三陸町への支援に対して川崎大師ＲＣとして何が出来るのか、また出来ることの中で何を希望されているかの意見交換のために伺いました。

佐沼ＲＣとの関係を調べてみました。（船山会員が作成した記事と事務局の資料を参考）

佐沼ＲＣとの友好クラブの関係は、台北西門ＲＣとの関係に遡ります。１９７９年８月１４日　第７代　谷卯三郎会長の時に台北西門ＲＣと川崎大師ＲＣで姉妹クラブを締結しました。(当時は川崎東ＲＣ)　佐沼ＲＣも同年台北西門ＲＣと姉妹クラブを締結しています。

この関係が縁で交流が始まり、佐沼ＲＣ氏家氏がスーパーマーケット、当クラブの石川六郎会員が同業、その他に佐沼ＲＣ布施氏（歯科医)、当クラブ谷氏などのご尽力があり、第１０代　石川六郎会長の時に１９８２年１１月１１日の理事会で友好クラブになることを決定し、翌年１月に佐沼ＲＣを訪問し友好クラブとなりました。

当クラブで昨年度は､RI２５９０地区での共同義捐金という依頼があった中、渡辺パスト会長はじめ当クラブでは会員に義捐金を募り、直接佐沼ＲＣへ義捐金を手渡すという形をとりましたが、今年度は｢何か形に残る支援をしよう｣ということになりました。

くりこま高原駅に着くと、佐沼ＲＣの数名の方が歓迎してくれてそのまま南三陸　ホテル観洋へ向かいました。暗いうちに到着したことと、立派なホテルだったので「ここが被災地なの？」という思いでしたが、懇親会の席で佐沼ＲＣの方から伺う話を聞いているうちに災害の大きさやこれから夜があけて目にする光景の恐ろしさを想像しました。

数十メートル高台にあるホテルは５階がフロントで、津波はそれでも２階まで襲ってきたそうです。露天風呂に入ると目の前は穏やかな湾が広がり、今は少しずつ復興してきている町の明かりが線にはなっていなく点で見えました。次の日に分かったことなのですが、風呂の外に生えている木にビニールが引っかかっていたのですが、それは津波が１５ｍほどの高さにある露天風呂をも飲み込んだときに引っかかったものだそうです。

朝、目の前には風光明媚な南三陸の景色が目に飛び込んできました。それは、現状を分かっていなかったからで、普通に建物のように見えたものは瓦礫の山で、近くに行って分かったのですが、立っている建物はほとんどが廃墟だったのです。

朝食後、用意していただいた車２台で南三陸町の被災地、そして災害対策本部と案内していただき、南三陸町長の佐藤　仁様と会談しました。災害対策本部といってもプレハブの仮設庁舎で、市長室もその片隅の２階です。本当に忙しい町長がわざわざ時間を割いていただき、我々の話を熱心に聴いてくれて、被災地での現状やここまで復興してきたこと、それでも復興はこれからという貴重なお話を頂き、増田会長からは「我々に何が出来るか」という思いを伝えさせていただきました。

被災地は、何もない、動いていない、そこら中が廃墟というのが実感で、車は飴のように変形して山を形成していて、木造の建物らしきものは土台しかなく、鉄骨の建物は壁が剥がれて鉄の骨だけになっていたり、津波が引いた時のままになっているものばかりです。海岸線の陸橋は崩れ落ち、道路もそこここで通行止め、４階建てのビルの屋上にいまだに放置されている車、テレビで毎日のように見た光景と、まるで空爆にあったような光景はタイムマシンで別世界に連れて行かれたような気にさせられます。

その後、被災地から車で４０分位かけて登米町の佐沼ＲＣ例会場へ向かいました。

登米町というのは本来「とめまち」ではなく「とよままち」と読むそうです。

３月１１日の東日本大震災から１ヶ月以上も電話の繋がらなかった例会場のサンシャイン佐沼はそんなことがあったことを感じさせず、会員の皆様もとても寛大し

て例会場に迎え入れてくれました。例会場では布施会員はじめ昔をご存知の会員から声をかけられ、当時の話をいろいろと教えていただきあらためて長きに渡り友好を深めていったことを感じさせられました。例会中、会員の阿部康彦様からサプライズで登米市長と面談出来るとの知らせを頂き、例会を途中で中座して程近い登米市役所へ出向き、市長と面談しました。向かう道中で知らされたのですが、市長は佐沼ＲＣの会員でお父様は前出の友好クラブ締結の時にご尽力頂いた布施会員です。市長の本職は歯科医で今回の震災に対して医療の現状と今後の病床のまったくない被災地に対する登米市の医療支援体制を力説していただき、今後も引き続き支援に前向きな話をいただきました。

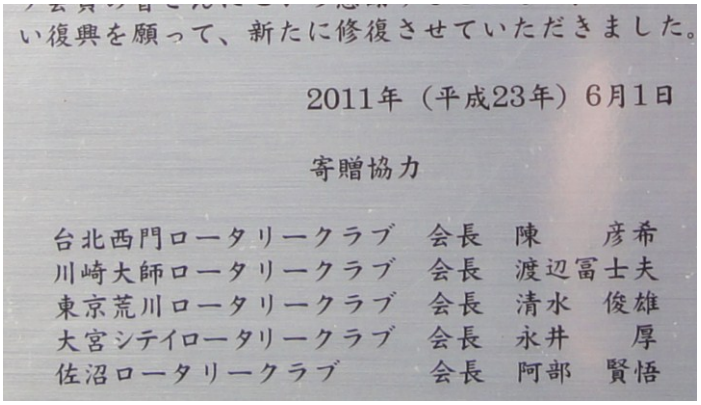
時間に少し余裕があったので、スーパー跡地に出来た仮設住宅を訪問したのですが、集会場では南三陸町に住んでいた女性方が集って手編み教室を開いていて、どの方も笑顔で本当に心苦しい気持ちになりました。

その後、川崎大師ＲＣも関係した宮城県合同庁舎駐車場に６月に建立した時計台を見せていただき、昨年度の渡辺会長のお名前を確認してきました。

南三陸　ホテル観洋を出てからの一日はとても長かったのですが、帰路新幹線の座席に座った時には充足感と佐沼ＲＣの方の心温まる対応への感謝、そして何より被災地を抱えているというような悲壮感ではなく、常に前を見て少しでも前進しようとしていると感じさせられた事は時の長さを半分にも、瞬く間にも感じさせられます。

最後に、南三陸町長　佐藤　仁氏の１枚１枚の名刺に直筆で書かれている言葉、「ご支援に心から感謝！！」に感謝！！

増田会長の隣が
登米市長　布施様



い復興を願って、新たに修復させていただきました。

2011年（平成23年）6月1日

寄贈協力

台北西門ロータリークラブ　会長　陳　彦希
川崎大師ロータリークラブ　会長　渡辺冨士夫
東京荒川ロータリークラブ　会長　清水　俊雄
大宮シテイロータリークラブ　会長　永井　厚
佐沼ロータリークラブ　会長　阿部　賢悟

次回例会１２月７日（水）

第５回クラブ協議会

年次総会

：クラブ会報委員会

岩崎寛／川又竜志郎／久保博和／沼田直輝